

## 欠点－改善点（課題－対策）列挙法

欠点－改善点（課題－対策）列挙法は、テーマの欠点・課題を思いつくままに挙げて整理した上で、その改善点・対策を1つずつ考えていく方法です。テーマに対して、「ここが良くない」「これが課題である」と一通りダメ出しをしてから、欠点・改善点に対して、「改善する余地はあるのか」「解決するためにはどうすればよいか」を1つずつ具体的に考えていくために、意見やアイデアが多く出て、具体的・現実的・建設的・実践的な内容になる傾向があります。

### ■欠点－改善点（課題－対策）列挙法の進め方

#### 1. テーマを決める

- まずはテーマを決めます。人でも、会社・組織でも、地域でも、物や商品でも、サービスでも何でも構いません。ダメ出しができるもの、更に良くしたいもの、将来の伸びしろがあるものをテーマにしてください。

#### 2. 個人作業・集団作業1：テーマについての欠点・課題を明らかにする（図1）

- ブレインストーミングによる親和図法・連関図法の手法を使い、テーマについての欠点・課題を明らかにします。ブレインストーミング、親和図法、連関図法などの手法については、別のプリント「ブレインストーミングによる親和図法・連関図法」を参照してください。
- まずは個人作業で、テーマについて欠点・課題だと思うことを黄色のフセンに書きます。どんなに小さな思いつきの欠点・課題でも、自分の思い込みなどの主観が入っていても、もちろん構いません。
- その後、集団作業で模造紙に貼りながら共有して、ピンクフセンやマジックなどを使って親和図法・連関図法でまとめていきます。模造紙は縦長に使って、欠点・課題だけで1枚の模造紙にまとめます。

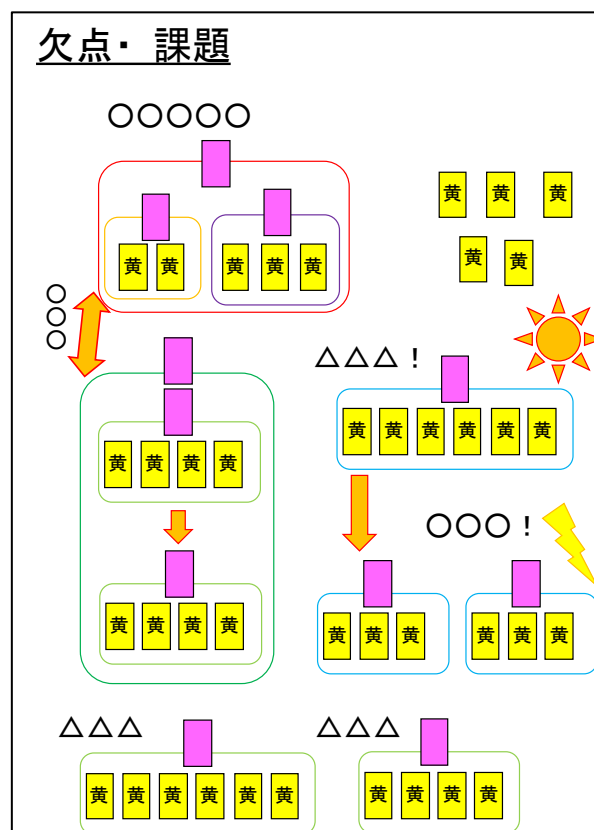


図1 「欠点・課題」の模造紙

(※下線部の単語は模造紙に記載する) (黄：黄色フセン、無記：ピンクフセン)

### 3. 個人作業・集団作業2：テーマについての改善点・対策を明らかにする（図2）

- 2の作業が終わったら、2の作業でまとめられた欠点・課題（ピンクフセンレベルの内容）（図1）に対して、改善点・対策を考えていきます。こちら、ブレインストーミングによる親和図法・連関図法の手法を使います。
- まずは個人作業で、挙げられた欠点・課題について、改善点・対策だと思ふことを黄色のフセンに書きます。どんなに小さな思いつきの改善点・対策でも、自分の思い込みなどの主観が入っていても、もちろん構いません。なお、改善点・対策を書く時には、2の作業で作成した欠点・課題のまとめ（図1）を、みんなから見えるところに置いて作業してください。
- その後、集団作業で模造紙に貼りながら共有して、ピンクフセンやマジックなどを使って親和図法・連関図法でまとめていきます。模造紙は縦長に使う、改善点・対策だけで1枚の模造紙にまとめます。
- 集団作業でまとめる時には、どの欠点・課題に対する改善点・対策かは特に意識しなくて大丈夫です。テーマ全体についての改善点・対策というかたちでまとめてください。

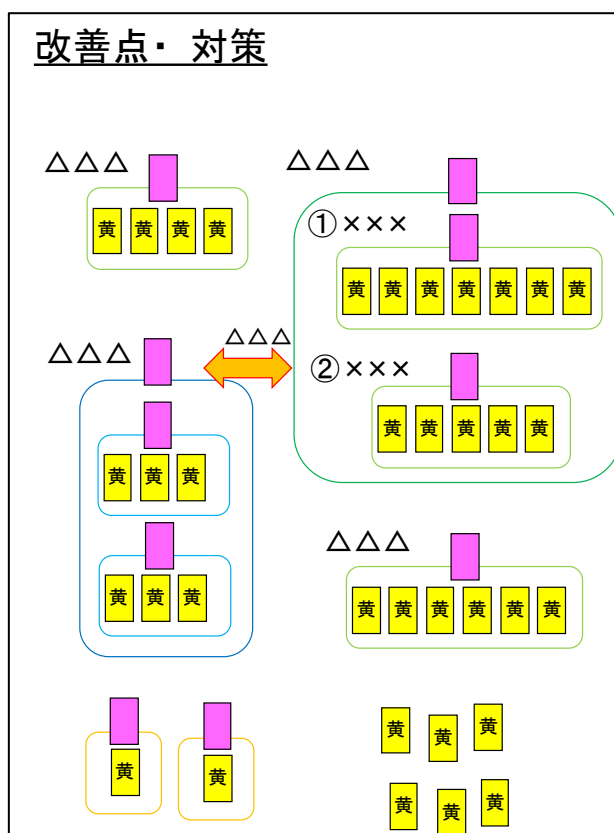


図2 「改善点・対策」の模造紙

（※下線部の単語は模造紙に記載する）（黄：黄色フセン、無記：ピンクフセン）

### 4. 集団作業3：まとめられた欠点・課題と改善点・対策との対応関係を考える（図3）

- 2・3で作成した2枚の模造紙をテーブル等でつなげて、欠点・課題のまとめと、改善点・対策のまとめを見比べながら、矢印でつないでみたり、マジックで書き込んだりしながら、対応関係を考えます。
- 図3は一例です。すべての要素を無理に対応させる必要はありません。図3の矢印・○印の番号について、図に書き込むだけでなく、新たな模造紙に水性マジックで文章・図表などを書いてまとめても構いません。どのような方法でもよいので、テーマの欠点・課題と、その改善点・対策についてまとめていきます。

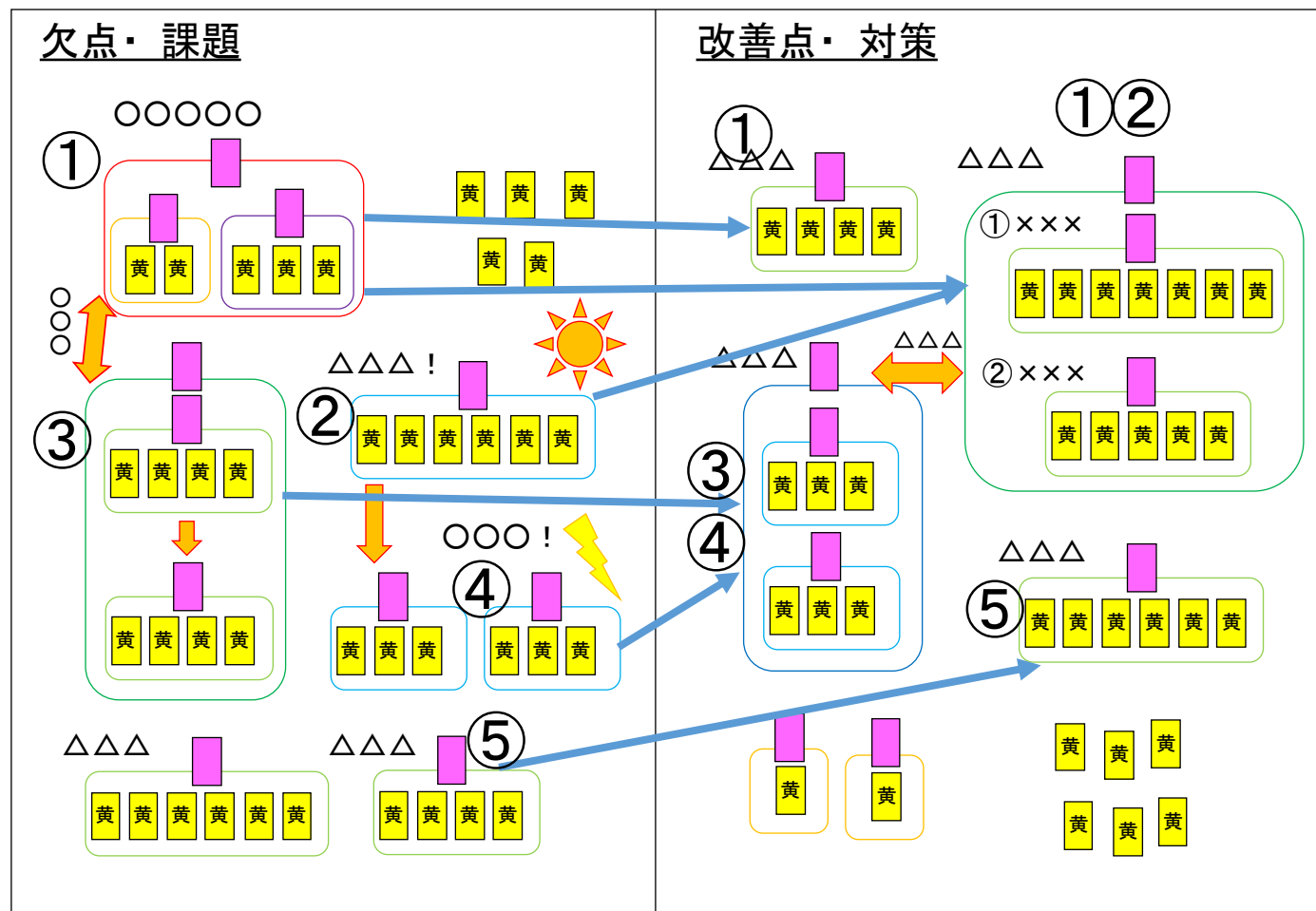


図3 欠点・課題と改善点・対策の対応関係をつけたもの

#### 5. 集団作業4：「欠点・課題」と「改善点・対策」をまとめて行動計画・改善計画を提案する

- ・図3で明らかになった「欠点・課題」と「改善点・対策」の対応関係を検討したり、それぞれの改善点・対策の実現性や優先順位などを評価したりしながら、最終的な行動計画・改善計画を考えていきます。時間があれば、新たな模造紙に、「行動計画・改善計画」などとタイトルを書いて、直書きで箇条書きなどでまとめてもらっても構いません。
- ・なお、今回のような「ブレインストーミングによる親和図法・連関図法」を用いて欠点－改善点（課題－対策）列挙法を実施する以外にも、図4のようなワークシートを用いる場合もあります。図4は、①テーマ、②目標・理想の姿を決めた後、③課題、④対策について、四角の中にアイデア・意見を書いていき、最後は、③と④で対応するものについて点と点を結ぶ（1対多、多対多もあり）という方法です。

参考文献：伊東直哉（2004）MBA 式戦略発想トレーニング、PHP 研究所、高橋誠（1984）問題解決手法の知識＜第2版＞、日経文庫 341、日本経済新聞社、向江竜生（2015）「災害をイメージする力」を育む防災教育プログラムの開発～課題・対策列挙法で適切な災害対応を学ぶ～、兵庫県立大学環境人間学部卒業論文、MUKAE, R., TAMURA, R., TOMOYASU, K. and KIMURA, R. （2014）“Development of Education Program for Enhancement of Disaster Management Competency in High School: “Problem-solution Enumeration Method” to Image and Manage Disaster”, Proceedings of the 2014 TIEMS Conference in Japan, Vol.21, CD-ROM (1p.)（当時大学生だった向江竜生・田村遼が開発した「課題・対策列挙法」）、行宗蒼一（2000）脳みそのほんとうの使い方－マスタース編、日科技連

# 課題一対策列挙法

学籍番号

氏名

①テーマ

について考えよう

②目標・理想の姿

--

③課題

⑤課題と対策を  
線でつなごう！

④対策

	●	●	
	●	●	
	●	●	
	●	●	
	●	●	
	●	●	
	●	●	
	●	●	
	●	●	
	●	●	

向江竜生（作成）を一部改変

図4（参考） 課題一対策列挙法ワークシート（向江竜生（2015）作成を一部改変）